

トリプケースソイ寒天培地 (SCD 寒天培地) (TSA-D)

TrypCase Soy Agar (TSA-F)

栄養要求性の厳しくない微生物の分離

用途

トリプケースソイ寒天培地は、発育に際し特殊な要求性を示さない細菌を増殖させるために使用します(1,2)。

無添加でそのまま、あるいは血液(ヒツジあるいはウマ血液)を添加し使用します。

血液の添加により、溶血性が確認できるようになります。これは細菌の同定における基本的な試験です。

本培地はヨーロッパ薬局方、アメリカ薬局方および日本薬局方の国際調和事項に準拠しています(3,4,5)。

原理

本培地はペプトン混合物を含有しており、ほとんどの微生物の増殖が促進されます。

キット構成

	粉末培地
REF51044	500g

組成

理論値

性能を確保するため、若干変更される場合があります：

カゼインペプトン(牛).....	15g
ソイペプトン.....	5g
塩化ナトリウム.....	5g
寒天.....	15g
精製水.....	1l

pH7.3

必要な器材

- オートクレーブ
- オートクレーブ可能な試験管
- オートクレーブ可能なボトル
- ふ卵機

追加可能な試薬

- 脱線維素ヒツジ血液
- 脱線維素ウマ血液

使用上の注意

- in vitro* 試験、微生物試験にのみご使用下さい。
- 熟練者がご使用下さい。
- 本製品は動物由来の原料を含みます。由来に関する知識、由来動物の衛生状態は感染性のある病原体がないことを保証するものではありません。したがって、これらは潜在的に感染の可能性があるものとして、充分注意の上お取り扱い下さい(接種または吸入しないで下さい)。
- 全ての検体、培養物および検体を接種した製品は感染性があるものとして適切にお取り扱い下さい。被検菌の無菌操作および通常操作の留意事項は以下のガイドラインをご参照下さい。安全ガイドライン: CLSI/NCCLS M-29A, «Protection of Laboratory Workers from instrument Biohazards and Infectious Disease Transmitted by Blood, Body Fluids, and Tissue, Approved Guideline – Current Revision»

操作留意事項: Biosafety in Microbiological and Biomedical Laboratories, CDC/NIH – Latest Edition、または各国の規制ガイドラインに従って下さい。

- 本培地を製造原料として使用しないで下さい。
- 有効期限切れの製品は使用しないで下さい。
- 均一でない(塊のある)培地は使用しないで下さい。
- 最初にご使用になる前に、ボトルキャップの開封防止シールに破損がないことをご確認下さい。
- ご使用後はキャップをしっかりしめて下さい。
- 湿度の高い環境下で培地を開封しないで下さい。
- 本培地は取扱い説明書に記載されている操作方法に従って使用して下さい。操作方法を変更すると結果に影響を及ぼすことがあります。

貯蔵条件

- 2-30°C下で有効期限まで保管可能です。
- 乾燥した環境下に保管して下さい。
- ご使用後はキャップをしっかりしめて下さい。

検体

本培地は一般にあらゆる種類の検体から分離された微生物の継代に使用します。

非無菌医薬品の微生物管理に使用する場合は、薬局方の国際調和事項に従って下さい。

使用法

培地の調製:

- 本製品 40g に精製水 1l を加えます。
 - よく攪拌します。
 - 沸騰水中に 1-2 分さらします。
 - ボトルに分注します。
 - オートクレーブで 120°C、15 分間加熱します。
 - 少なくとも 15 秒間室温にさらした後、45-50°C に設定したウォーターバスにボトルを移します。使用するまでの温度で保温します。
 - シャーレに分注します(1 枚あたり 18-20ml 程度)。
 - 培地が冷め、固まった後使用します。
- 注意:** 血液は上記 6. の後に加えて下さい(各添付文書に記載された方法に従って下さい)。

検体の接種および培養:

非無菌医薬品の微生物試験に使用する場合は、薬局方の国際調和事項をご参照下さい。

表面塗抹法で使用する場合:

医薬品および化粧品中の総好気性微生物数の測定に使用する場合、シャーレに分注した本培地の表面に塗抹後培養します(例: 30-35°C で 5 日間まで)。

他の目的に使用する場合は最新の標準法に従って下さい。

混釈法で使用する場合:

通常、

- 検体を 2 枚の空シャーレに接種します。
- 45-50°C に保温しておいた培地を約 15ml 注ぎます。
- よく混釈します。

4. 平らな場所に置いて固めます。
5. フタを下にして培養します(例:30-35°Cで5日間まで)。最新の標準法に従い、用途に応じて適切な温度で培養して下さい。

判定

- 培養後、細菌の発育を確認します。
- 血液を添加している場合、溶血性を確認します。
 - α 溶血:コロニー周辺が緑がかります。
 - β 溶血:コロニー周辺あるいはコロニー下部に透明帯が観察されます。
- 分離菌の同定には生化学的または免疫学的試験を実施して下さい。
- 医薬品の試験に用いた場合はコロニーをカウントして下さい。

品質管理

本培地は厳格な品質への要望を満たすよう開発・製造されています。

各ロットの品質管理における菌株試験結果は試験成績書に記載されています(ご要望により提供致します)。

薬局方の国際調和事項に従い管理します。

留意事項

- 発育の度合いは微生物各個体の要求性に左右されます。従って、特殊な要求性(発育因子、温度、培養条件等)を有する菌株は発育しないこともありえます。
- 溶血性の種類は、種、および各菌株特有の動態に依存します。
- 検体は多岐にわたるため、用途に応じてバリデーションされることをお勧めします。

廃棄処理

使用の有無にかかわらず、他の汚染廃棄物とともに、感染の危険性のある物質の廃棄方法に従い廃棄して下さい。

廃棄産物や流出産物は使用施設の責任の元、それぞれの性質や危険性の度合いに応じて適切な規制に従い廃棄して下さい。

参考文献

1. FINEGOLD S. M., MARTIN W. J., SCOTT E. G. – Bailey and Scott's Diagnostic microbiology – MOSBY – 1978.
2. Mac FADDIN J. F. – 1985 – Media for isolation – cultivation – identification – maintenance of medical bacteria, vol. 1, Williams and Wilkins, Baltimore.
3. European Pharmacopoeia EP 5.
4. United States Pharmacopoeia USP 29.
5. Japanese Pharmacopoeia JP 15.
6. MURRAY P. R., BARON E. J., PFALLER M. A. et al. – 1995 – Manual of clinical microbiology, 6th ed. – American Society for Microbiology, Washington, D. C. – ISBN 1-55581-086-1.

記号

記号	内容
	品番
	製造元
	保管温度
	有効期限
	ロット番号
	使用手順を参照
	湿気を避ける

(問い合わせ先)

製品関連

シスメックス株式会社 CSセンター

臨床(病院、臨床検査センターなど) TEL: 0120-265-034

産業(企業、保健所など) TEL: 0120-022-328

注文・納期・在庫関連

シスメックス・ピオメリュー株式会社

TEL: 03-6834-2666(代表)



シスメックス・ピオメリュー株式会社

東京都品川区大崎一丁目2番2号
大崎セントラルタワー8階

Tel: 03-6834-2669 / Fax: 03-6834-2667

<http://www.biomerieux.co.jp>



bioMérieux SA

Chemin de l'Orme
69280 Marcy-l'Etoile - France
RCS LYON 673 620 399
Tel. 33 (0)4 78 87 20 00
Fax 33 (0)4 78 87 20 90
www.biomerieux.com